

登録コード	L1632300		開講年度	2026			
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	社会心理学特論						
英文授業名	Social Psychology: Advanced Lecture						
授業タイトル	社会心理学特論：旅の社会心理学						
単位数	2	対象学生		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第4講義室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2022Lカリ，2021Lカリ						
	【2022年度以前が対象】過去の英知の批判的継承のうえに 立って創造的な未来を切り拓く開拓力			過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く 開拓力が身に付くようになる			
	2026Lカリ，2025Lカリ，2024Lカリ，2023Lカリ						
	【2023年度以降が対象】人文学部人文学科の学士（文学） の称号にふさわしい基礎学力と専門の学力が身についている。 【思索力・受容力・批判力】			人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力 と専門の学力が身に付くようになる			
	【2023年度以降が対象】専門の学力を基盤とし、持続可能 な社会を実現するための課題に取り組む力が身についている。 【開拓力・企画発想能力】			専門の学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題 に取り組む力が身に付くようになる			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	インバウンドや地域振興という文脈から観光に対する関心，期待が高まってきている。一方で，観光に関する教育や研究は，観光業種に就くための実践的なハウツー教育や，実学としての観光論，地域振興としての観光学が中心であった。また，観光行動に関する話題や解説はテレビや雑誌など身近なメディアにも多く掲載されている。しかし，それらの情報の多くは，耳目を集めるために話題性が高いだけの，科学的知見に基づかない表面的な議論であるのが実情である。本講義では，それから一旦距離をおき，社会心理学や観光学などの科学的知見に基づき，旅をすることの心理過程についての議論を行う。これらの学習を通して旅行行動・旅行行動についての理解を深めてもらいたい。						
授業計画	第01回 オリエンテーション 第02回 日本における観光行動の実態 第03回 観光行動・旅行行動とはなにか 第04回 レジャーと観光 第05回 どう「おもてなし」するのか-接客とホスピタリティ 第06回 どんな場所がひとを惹きつけるのか-観光地のアフォーダンス 第07回 旅マエー観光行動における情報とイメージ 第08回 人はなぜ旅に出るのか-観光動機の構造と機能 第09回 旅ナカー観光行動と感情経験の意味 第10回 何を求めて旅をするのか-旅と巡礼 第11回 何を求めて旅をするのか-旅と山行 第12回 何を求めて旅をするのか-バックパッカー 第13回 地域資源としての道 第14回 旅アトー旅の思い出と原風景 第15回 まとめと授業アンケート なお，状況に応じて，予告した内容を変更する場合がある。						
成績評価の方法	講義中の発表内容と期末試験とを3：7の割合で総合的に評価する。						
成績評価の基準	・旅行行動についての実態について理解している ・旅行行動についての科学的調査法，分析法について理解している ・旅行行動についての心理過程について理解している ・旅行行動について理解した上で，観光や旅行について自分の考えを主張できる 以上の4項目を満たしていれば「かなり上にある」，3項目であれば「やや上にある」，2項目であれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	毎週テーマを与えるので，各自がテーマに関連する「実証的な研究」を複数読み，論考してくること。またその内容を授業中に発表してもらう。						
履修上の注意	旅，観光という楽しく身近な話題ではあるが，実証科学に基づいた議論を展開する予定であるため，心理学，社会心理学，社会学など，実証科学，行動科学関連の概論科目を複数履修済であることが望ましい。本授業では生成系AI（ChatGPT等）の利用を禁止しない。ただし，「思考の代行」としてではなく，「学習補助」としての利用に限定する。具体的には，文章の推敲，文献・事例の探索等に用いるにとどめ，自分の主張の核（問い，立場，論証）は必ず自分の頭をつかって構築すること。また，AIが提示した参考文献や知見には誤りが含まれる可能性がある。したがって，レポート等で論拠として挙げる文献については，AIの要約や二次情報のみに依拠せず，必ず原典（一次資料）を自分で入手して通読し，内容を理解した資料のみ引用・参照を認める。その上で，生成系AIを利用した場合は，利用箇所・用途を明記すること。以上（主張の中核を自ら構築すること，原典確認，利用箇所・用途の明記等）を満たさないまま提出したことが確認された場合，減点の対象，または不正行為として取り扱う場合がある。						

質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にも、メールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。
教科書	特には定めない
参考書	橋本俊也（編著）「観光行動論」 原書房 前田勇他（監修）「観光とサービスの心理学:観光行動学序説」 学文社 佐々木土師二 「観光旅行の心理学」 北大路書房 佐々木土師二・他 「観光の社会心理学—ひと、こと、もの 3つの視点から」 北大路書房